

おとなたち。

その学びと育ちを支えるのは、

子どもたち。

新しい時代を切り拓くのは、



門川 大作 | 京都市長

子どもは社会の宝。安心安全と健やかな学びと育ちの支援とともに、一人一人の良さを伸ばしていけるよう、家庭、保育園等の子育て支援施設、地域、行政それぞれが大切な役割を担っています。

京都市は保育士の配置基準や給与水準は全国トップレベルで、各園のご努力で一人一人に丁寧に向き合い質の高い保育・教育が実践されています。その理念は財政が厳しい中でもしっかりと堅持します。そして、幼児期の学びを基礎に市立小学校での一人一人の子どもを徹底的に大切に教育へと繋いでいきます(京都市立の小学校は、全国学力調査で政令市1位)。

これからも、共に、子どもたちを健やかに心豊かに大きくむまづくりを進めてまいります。



日比野 英子 | 京都橘大学学長

子育ての方法にはただ一つの正解があるわけではありません。保育士さんに出会うと、日々一人一人の子どもと向き合い、その子の成長にとって最もふさわしい支援を探求しておられる姿が見えてきます。子どもが家庭外の日常で、初めて出会う大人としての責任感。ご家庭と保育士のパートナーシップのもとで育つ子どもは、withコロナの情報社会においても、人間にしかない豊かな想像力、好奇心、共感性などの心をもつ人へと成長されるでしょう。

子育てには孤独で悩ましい一面もあり、心強い味方を持つことは大切です。ぜひ保育士さんと息の合った子育てチームを形成してください。

社会を支える 誇りと使命感

子どもたちの最善の利益を尊重し、密を避けることができない現場で、感染のリスクを抱えながら社会の機能を支えるエッセンシャルワーカーとしての誇りと使命感を持って保育、教育、子育て支援を続けています。

子どもたちの 明るい未来のために

京都、そして日本の新しい時代を切り拓く子どもたちのために、「より良い保育とは何か」「より良い教育とは何か」「より良い日常とは何か」を問い続けながら、子どもたちの健やかな学びと育ち、明るい未来のために全力で取り組みます。

アフターコロナを 見据えて

これからの保育・教育を見直すきっかけとなったコロナ。子どもたちの主体性を尊重し、どんな逆境にも自らのチカラで立ち向かい解決できるよう、また心豊かにたくましく生きる力を身に付けられるよう、将来の姿を見据えてアフターコロナに向けて新しいスタイルでの保育、教育、子育て支援をしてまいります。

家庭と施設 共育(きょういく)で 新たな一歩へ

子どもたちの健やかな学びと育ちにとって「家庭」「施設」どちらの経験も大切です。わたしたちは、家庭と施設(保育園・認定こども園、児童館)がそれぞれの役割を担い、協力(共育)し合って子どもたちの学びと育ちに関わっていけることを望んでいます。コロナをきっかけにして、これまでのライフスタイルや働き方も見直されています。家族みんなで過ごす時間が今まで以上に大切にされ、バランス良く(土曜日も含め、就労等に見合った)施設を利用していただくことで、子どもたちのよりよい学びと育ちへの、新たな一歩となることを願っています。

ご案内

京都市内保育園(所)
認定こども園

令和4年度の保育利用申込の案内冊子の配布及び保育利用の申込みについては令和3年10月4日より開始されます。詳しくは京都市ホームページをご確認ください。
(一次調整の申込期限は11月19日)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hagukumi/page/0000289205.html>

ご案内

京都市内児童館
(学童クラブ事業)

令和4年度の学童クラブ利用申込の案内冊子の配布については令和4年1月初旬より開始される予定です。
詳しくは12月中旬に京都市ホームページをご確認ください。
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hagukumi/page/0000289578.html>